

# 関税局長からのメッセージ



明治25年(1892年)に制定された税関旗は、青い部分が「海と空」を、白い部分が「陸地」を表し、その接点に税関があることを示していると言われています。

令和4年(2022年)11月28日に、税関の前身である「運上所」が「税関」という呼称に統一されてから150周年を迎えます。明治開国以来長きにわたり、税関は、貿易秩序の維持及び日本の経済の発展に大きな役割を果たしてきました。

平成の約30年間でも、貿易額は2.8倍、輸出入許可件数は5.5倍、訪日外国人旅客数は13倍となるなど、税関を取り巻く社会環境は大きく変わりました。その中で社会悪物品等の密輸リスクは益々増大しており、水際での法執行を担う税関への期待は一層高まっています。

税関はまた、徴税機関として適正かつ公平に関税等を徴収することや、貿易の円滑化も重要な使命としています。TPP11や日EU経済連携協定に引き続き日米貿易協定も発効し、その役割はますます重要となっています。



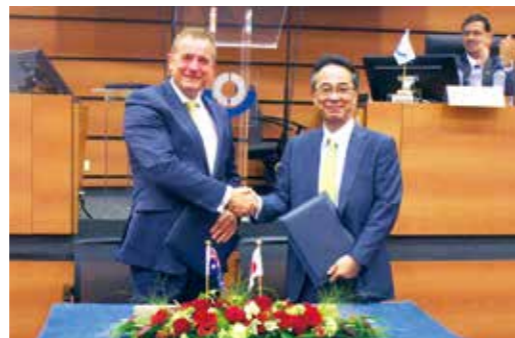
税関巡視艇「わかしお」にて神戸税関水島港を巡視



沖縄県那覇クルーズターミナルの視察



WCOセキュリティカンファレンス(2019年京都)



豪州国境警備隊長官とAEO相互承認取決めの署名式

令和3年(2021年)には東京オリンピック・パラリンピック競技大会、令和7年(2025年)には大阪で日本国際博覧会といった大規模な国際イベントを控え、迅速かつ円滑な通関と水際でのテロ対策にも万全を期し、国民の安全・安心を確保することも求められています。

将来の大きな変化に対応し、20年後、30年後も国民の期待に応えるため、これまでの仕事のやり方にとらわれず、柔軟な発想で関税政策・税関行政の企画立案に取り組むことが求められています。また、皆さんには、世界各国の税関職員とも「税関ファミリー」として結ばれ、ともに貿易の円滑化を実現していくなど、国際的な活躍の場も広がっています。

— 志ある皆さんを「税関ファミリー」の一員として迎え、若いエネルギーを原動力として新たな時代を切り拓き、将来の税関の礎を共に築く日が来ることを心から楽しみにしています。—

関税局長 中江 元哉

# 世界最先端の税関を目指して

経済活動のグローバル化が急速に進む中、3つの使命を税関は果たしています。

## 税関の使命

1 安全・安心な社会を実現する。

銃器・不正薬物・知的財産侵害物品等の密輸を阻止するとともに、我が国におけるテロ行為を未然に防止することにより「世界一安全な国、日本」を構築。

2 適正かつ公平に関税等を徴収する。

約9.1兆円すなわち国税収入の約14%に相当する額を徴収する歳入官庁として、適正かつ公平に関税等を徴収。

3 貿易の円滑化を進める。

国際物流におけるセキュリティを確保しつつ、民間企業との協力やIT化の推進などを通じ、通関手続を一層迅速化。

税関職員は、5つの行動指針に則って、3つの使命遂行に取り組んでいます。

## 税関職員の行動指針

- 誠実に行動し、社会からの信頼と期待に応えます。
- 誇りと使命感を持って、業務に取り組めます。
- 円滑なコミュニケーションを図り、チームで前進します。
- 改善意識を高め、日本と世界の変化に機敏に対応します。
- 自ら学び考え、プロフェッショナルとして成長します。

